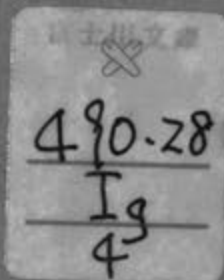


醫
業
叢
譜



富士川家藏本

醫業家譜元起第卷四

目錄

高五百石
高月俸百口
高四百俵
高五百石
高三百三十四俵
高二百俵
高月俸十五口
高三百俵

河野松菴
武田道安
武田叔安
塙宗悦法眼
田村安栖
元山宗哲
田澤玄兆
佐田玉傳
信邦
長好
養健
有道



490.28
I

No. 2276
12 | 111



富士川文庫
253

崇徳院殿侍中とらるるに江原とらるるに寛永三年

崇徳院殿侍中とらるるに江原とらるるに寛永三年

壽林と稱し一たびこれ西都のたつとて又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

ついでに又此のついでに

高田の領免を所領ししに於て
大敵よりこれ月付百石を所領せし後
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て

大敵よりこれ月付百石を所領せし後
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て

高四百俵

武田叔安 信邦

武田叔安の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て
高田の領免を所領ししに於て

〇〇信武
 新羅三郎義光後胤
 武田
 九列標題
 延文三年四月辛酉
 利發寺依林院

〇〇信武
 武田
 九列標題
 延文三年四月辛酉
 利發寺依林院

武田家系圖

本國 安藝
 紋被差 左巴

直信

武田四郎 左馬助
 安藝守
 九州文守 德始以左馬為紋
 以被差為副紋與甲州
 武田分異同也

信綱

武田伊豆守 左馬頭

信賢

武田治部少輔 大膳大夫 陸奥守
 安藝國守護蒙武家勳氣
 赴于伊豫國

信光

武田從三位 兵部少輔
 任伊豫國
 屬河野

信治

武田修理大夫 任伊予國首政 匿高野山
後屬信隆在洛寄食
以醫之為業 正馬

信重

武田道安法眼
賜月俸百口

信勝

武田友開法眼

信德 武田壽

信經 武田帶刀

武田泰安

改直告
子孫略

信良

武田縣三郎 養安道安

信成

武田次郎 杏仙 長春院

信任

武田杏菴 泰安
如上抄氏

信孝

武田勝九郎

女子

黒川道常 專

敬信

武田文安 先父而死
丹上杉氏女

女子

嫁同姓信卿

信卿

武田叔安 長春院法印
實重川道安氏男
實重叔武田叔安長春院法印女

女子

嫁同姓信卿
母叔安九左門傳叔女
本回

養女

石谷助太郎 專

養女

實同姓敬信女

信復

武田叔安 宗安法眼 号春山
母泰安信經
妻有馬内膳終之女

養女

實森氏女
早世

信邦

武田叔安

女子

早世

女子

早世

高五百石

水乃橋内

高宗悦

高宗悦の先祖ハ高平姓ナリト云ク昔陸奥ニ居ル由
 大宮ニ此希流トシテ及ハ別居スルヨリ後三瓶ノ子
 とも中身此祖ト高五郎ト云フト云フ一高田信長ノ子
 信一軍印ト御モシト云ク信長ノ感賞トシテ凡此
 統ト御トシテ後信長此命リノ信一軍田御申ト云フ
 稱一主殿ト稱テ寺ニ合致ル時計表セリト云フヨリ
 知ラズルヨリ母此書ニ書キテ高五郎ト云フ
 高五郎ノ名ハ高五郎ト云フ云々

高五郎ノ名ハ高五郎ト云フ云々
 高五郎ノ名ハ高五郎ト云フ云々
 高五郎ノ名ハ高五郎ト云フ云々

高五郎ノ名ハ高五郎ト云フ云々
 高五郎ノ名ハ高五郎ト云フ云々
 高五郎ノ名ハ高五郎ト云フ云々

高五郎ノ名ハ高五郎ト云フ云々

坂上姓

田村家系圖

本國相模
紋三巴

後漢 聖德太子後乳

〇〇 田村長榮

田村安栖長傳

田村安栖長願

安栖長者

田村半兵衛直吉

三皇石左門直佳祖

笠原弥六 早世

田村助太衛長衛

四百五郎太入長七祖

田村傳右門

三百依傳左門長章祖

弟二

田村安栖

田村安栖

田村安栖

田村安栖長好

三百三十四條

高二百依

元山宗哲

元山宗哲は先祖元山與重を法号に、仁術善用其功業を

東遷するよりその功業を叙し、作して元和八年乙亥丁酉と

死す。一、昔中感ある事々多かり、法号と壽原院法名有りと

此の功業を叙し、又其業を述ぶ。善法に方規を名す。

法那の叙せられたる

四年辛未此の功業を叙す。感ある事々多かり、法名見性院

法那に有る事々多かり、法名見性院

十一年の又と名をけし海の中をくぐりて...
と名をけし海の中をくぐりて...
と名をけし海の中をくぐりて...

若くは...
若くは...
若くは...

年...
年...
年...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

高...
高...
高...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

高月俸十五人扶持

田澤玄兆 養健

田澤玄兆...
田澤玄兆...
田澤玄兆...

寛永七年三月廿一日
文眼より別よりわかれ月信十のちとわかれ山名信隆とわかれ

寛永七年三月廿一日
高田のちとわかれ月信十のちとわかれ山名信隆とわかれ

寛永七年三月廿一日
高田のちとわかれ月信十のちとわかれ山名信隆とわかれ

寛永七年三月廿一日
高田のちとわかれ月信十のちとわかれ山名信隆とわかれ

寛永七年三月廿一日
高田のちとわかれ月信十のちとわかれ山名信隆とわかれ

寛永七年三月廿一日
高田のちとわかれ月信十のちとわかれ山名信隆とわかれ

寛永七年三月廿一日
高田のちとわかれ月信十のちとわかれ山名信隆とわかれ

寛永七年三月廿一日
高田のちとわかれ月信十のちとわかれ山名信隆とわかれ

高三百俵

依田玉傳有直

依田玉傳有直
天正十一年三月廿一日
高田のちとわかれ月信十のちとわかれ山名信隆とわかれ

天正十一年三月廿一日

高田のちとわかれ月信十のちとわかれ山名信隆とわかれ

之百餘と物として法勝の敵をうらむ日十年丁未四月に死す
 西暦一千七百七十一年三月三日薨年四十九
 常和歌故多秀逸歌

意前。 消えしとて日十年丁未四月に死す

高延喜元年 壬子十二月十日薨年四十九
 常和歌故多秀逸歌

村上源代 佐田家系圖 本國伊勢

村上天皇十五世 北畠中納言

満泰 北畠左中將 討死
 賜義満卿之一字

教具 從二位大納言 賜義教卿之一字

文明三年三月二十三日薨年四十九
 常和歌故多秀逸歌

頭雅 大河内左中將 從三位大納言 賜主家政務

政卿 正四位下 右中將 賜義政卿之一字

常和歌故多秀逸歌
 永正五年戊辰出家同十月二日死

改親父
親卿

從四位下 左中將
嗣大河内家

又定具
具卿

佐田丹後守 從四位下
勢列三奈字六卿領之天文年 辛巳三月五日致仕
同年六月二十日卒年五十一歲法名長徳院摩山淨心

定勝

佐田丹後守 氏部少輔
佐田城主後移佐田城于岩出
元龜元年庚午五月九日於勢列中島後討死
五十四号松管院一花養法

定次

佐田江左門 寬永七年庚午六月廿三日於勢列而卒
卅九歳号宗秀院法岳常説直女子

女子
女子
女子
女子

福生氏妻
石乘助兵衛妻
朝田甚太妻

女子

勢列藤野城主
河原越中守 妻
改佐田

佐田才三郎

佐田五郎左門

水谷茂兵衛

水谷喜左門
水谷孫左門

始具方
材親

正三位 大納言

長享三年己酉七月八日賜
美材卿一字永正八年出家
同年五月死年四十四

元親平
晴具

參議 弓馬達者

親忠

正四位下 左中將
爲大河内城主
大永六年出家

女子

佐田丹後守定勝嫁

頼房

中納言 遠江守 式部大輔

具忠

田丸右中將 彈正少將
勢州田丸城主

天文十五年丙午十二月三日叙從五位上同十九年庚午正月五日叙從五位下同廿二年壬子四月五日叙從四位下待從
永祿八年乙巳九月七日叙任正四位右少中將同十二年丁卯十一月三日從三位右中將致仕号如慶天正十八年秋與直昌移奥州
同年十月廿六日於而三妻卒年七十七法名純成院片松常清

孝縁

僧正 南部弘福寺別當
号東門院

直昌

田丸中務太輔 妻北畠中納言具教女天正八年七月四日死二十七歳
母愛須彈正少將女 再妻蒲生氏卿女

慶長十五年庚戌三月七日領死年六十七
法名大岩院本秀心空

女子

阿古方 為豊臣秀頼侍女

御家所

於勢州而卒

某

右近大夫 天正十八年庚寅於奥州討死

女子

号依田

直茂

田丸兵衛尉
母北畠具教女

依加賀利常往于加伊正保四年丁亥十月廿六日没年七十二
号高山院惠叟良知

正長

田丸兵部 織部
順應三年甲午六月廿日於江戸卒年六十号長享院華材宗傳

直家

田丸織部
寶篋

直久

田丸主殿
寬文九年己酉九月七日死年四十六号
宋徳院天叙紹運

女子

天野依左門妻
為阿古方妻良女

慶長三年壬寅三月十八日死六十九
号桂昌院心月香元

女子

安見伊織妻
明曆三年丙申六月七日於信州没年六十一
号自光院祥雲理貞大姉

直綱

田丸左京
正保二年乙酉九月七日死江戸没年六十一号高月院花字天都

江

右工門

小

右工門

佐田玉壽

女子

今枝依左門妻
寬永十五年戊寅三月七日於加伊而没年三十一
号善光院蘭淑芳春大姉

直貞

田丸三膳 号誰菴
和列初瀬塾生
貞享四年丁卯八月朔日於江戸没
号誰菴宗伴

七郎兵衛

女子

女子

佐田玉縁

母家女房

女子

新小姓組

小林市郎正時妻

貞享三年丙寅六月九日没
号大園妙鏡信女

佐田玉縁法眼

實弟

定重

依田丑左門 兵左門 号玉川
母某氏女
元和五年壬未正月二十日生于勢列齋宮
爲依田江左門定次子
延宝六年戊午四月廿八日死年六十号
前法眼 玉峯宗川居士

直家

四九藏部
兄兵部正長養子

佐田玉川通昆

兼有乳母夫島女

寶永三年丙戌七月廿日没年五十九

号芳林院桂法宗昌

佐田倍川

母同

元禄六年己卯六月廿日死年三十五
号南牙紹薫信士

依田養逸

依田玉川

佐田玉塚法眼

兄玉塚跡尾州針殿背後
被召出

依田玉洲

職公卿

妻小尾彦大夫祐長女

依田玉壽

真
...

...

依田王殿
依田王殿
依田王殿
依田王殿

依田王殿
依田王殿
依田王殿

依田王殿
依田王殿
依田王殿

